

～鷹栖町の地域素材～

1 鷹栖町の概要

《位置》

東 東経 142度25分
西 東経 142度16分 東西 11.8 Km
南 北緯 43度47分
北 北緯 43度57分 南北 19.7 Km
面積 139.31平方キロメートル
※ 役場所在地は海拔120m

《地勢》

石狩川の水源地山嶺から神居古潭に至るまでの石狩川右岸地方全域を区域として開村したのが旧鷹栖村。その後いくつかの変遷を経て大正13年に東鷹栖・鷹栖・江丹別の3村に分村。東鷹栖村はウップツ川流域の近文原野に、江丹別川流域の江丹別原野を江丹別村に、3流域で一番広大なオサラッペ川流域のオサラッペ原野が現在の鷹栖町になる。

大正13年6月1日付けの北海道庁告示により、東は旭川市東鷹栖町に、南は近文台をもって旭川市に接し、北は鬼斗牛山脈によって和寒町に、西は半面山系の分水嶺で旭川市江丹別町に接している。

《沿革》

入植は明治20(1887)年、石狩川沿岸の原野調査が行われ、上川郡内は内田植民地選定主任から命ぜられた技手の福原鉄之輔らが半年をかけて調査をした。オサラッペ原野は明治24年5月から測量が行われ、1260区画、1920万8880坪という区画測量を終えて貸し下げが開始された。

これより先の明治24年4月15日に埼玉県人の木暮桑太郎、吉野慶助らがチカブニ原野に移住し、とりあえず道庁の指示を受けて旧土人給与予定地付近に散在入地をした。任意開墾を行って、一時の急をしのぎ、区画測量が終了した時に10ヘクタールずつの土地の貸し下げを受ける。

翌25年には田中農場(3戸)、26年には第一岩手県団体(42戸)、第二岩手県団体(20戸)、27年には山梨県団体(44戸)ほか石川県、徳島県、広島県などの各県から移住者が急増した。

鷹栖町の開基は明治25(1982)年2月4日の北海道庁令第5号による。明治23年に開村した神居村、旭川村、永山村の三村は石狩川の右岸流域一帯に属していなかった。石狩川の右岸地帯に「村」が置かれたのが先に記した明治25年の北海道庁令第5号による鷹栖村であった。

なお、当時は「地勢」にもあるように旧鷹栖村は石狩川の水源地山頂から神居古潭に至って空知郡を境とするまでの石狩川右岸流域一帯であった。

明治30年に愛別村(大正13年に上川村を分村)を分村させ、35年に字近文の一部を分離して旭川町に編入、さらに39年に比布村を分村させた。その後大正13年6月1日に旧鷹栖村を東鷹栖村とし、同日付で東鷹栖、鷹栖、江丹別の三村に分割、6月4日より敷こうされ、今日の鷹栖町となった。町制施行は昭和44年1月1日からである。

2 地域素材

《農業》

【オオカミの桃】

地場で生産された農作物に付加価値を高め、食品を通じて健康づくりをすすめようと、昭和56年に農産加工簡易施設を14線15号に建設。完熟トマトで作られ塩分は約0.3%に抑え、防腐剤などの添加物は一切使っていない。「オオカミの桃」のネーミングで市販を開始したところ、味の良さに加え一村一品運動の波にのり好評をかくする。

昭和61年に両農協と町が出資した(株)鷹栖町農業振興公社を設立し、「オオカミの桃」の量産体制に入っている。

なお、名称の由来はトマトの学名がラテン語で< *Lycopersicon esculentum* Mill > (< リコペルシコン・エスカレンタム・ミル >) となっており、この「*Lycopersicon*」を直訳すると「オオカミの桃」となることからネーミングされたという。

【海洋牧場】

13線13号に位置する民間のハウス野菜栽培場。昭和57年6月に立地されたもので、主として水耕栽培による「かいわれ大根・妻味菜」を生産販売している。

【ステビア】

キク科の多年生植物。甘味成分は蔗糖の300倍の甘さとして注目された作物。鷹栖町では祖湯輪49年から試験栽培をはじめ、平成2年には日本一の栽培面積を有していた。現在は鷹栖では栽培していない。

【たかすの味噌】

町の特産品。昭和56年に農産加工場が設立されてから、町民の自家用として製造が開始された。

地元の北野味噌麴店主の北野義明により、明治時代から伝わる醸造法を引き継いでいる。手作り味噌として評判が高まり、61年に鷹栖町農業振興公社設立と同時に、市販用として「たかすのみそ」の醸造を始めた。

【ひまわりの油】

昭和62年まで油脂メーカーに搾油を依頼していたが、昭和63年に鷹栖町農業振興公社が搾油施設を整え、圧搾方式による搾油を開始。現在は鷹栖町の特産品「たかすのひまわり油」として販売を行っている。

《 観光 ・ スポーツ ・ イベント 》

【熱夏フェスタ】

昭和48年に開基80周年記念式が8月8日に開催され、翌49年に8月8日を「町民の日」と定め、この日を中心に町民手津ウリによる楽しい祭りが計画され実施されてきている。現在は「熱夏フェスタ」として定着し定着している。

【丸山パークゴルフ場】

平成15年に丸山自然公園内に設置。2コースをつくり、芝をいためないように配慮しながら運営している。町内外から多くの利用者がいる。

【24時間マラソンソフトボール大会】

開基90周年を記念して、「愛は地球を救う」に連携して町民の輪を広げようと開催された行事。8月最終の土曜日午後7時から翌日の午後7時まで連続して大会を開くもの。

《 福祉関係 》

【さつき苑】

昭和63年4月に鷹栖市街地10線9号に開設された特別養護老人ホームの名称。この施設は社会福祉法人さつき会が運営にあたり、心身の機能が低下し、介護が必要とする老人が入所し生活する施設。

【大雪の園】

平成3年4月1日、中央地区（18線9号）に開園された定員50名の精神薄弱者更正施設の名称。

「大雪の園」は社会福祉法人鷹栖共生会が運営にあたり、知能の発達が遅れている人が入園し、これを保護するとともに、その更正に必要な日常生活の指導および作業訓練や知行訓練を行い、社会的自立と生活エリアの拡大をめざしている。

【ノーマライゼーションセンター】

昭和62年に中央地区（18線9号）に交流研修の場として立てられた施設。この施設は大正期に建てられ、鷹栖町の開拓当時の姿を残していた（辻野義光から寄贈された）ものを外観・内部の一部を昔のままに移築し復元したもの。

《その他》

【アメリカ人形】

昭和初期に日米友好のために人形の好感が行われ、アメリカからきた人形。「青い目をした人形」といわれた。

昭和2年に日米関係悪化を修復するために全米から12739個の人形が日本に送られてきた。そのうち北海道には643個が届いた。日本からは大和人形「北海花子」を送った。

鷹栖村では鷹栖・北野・北斗の三尋常高等小学校に迎えられたが、今はその人形はない。1979年の国際児童年に、全国でこの人形を発掘し、全道では7個発見されている。

【嵐山2遺跡】

昭和61・62年に嵐山トンネル付近で行われた調査（高速自動車道建設工事のため）で旧石器時代の遺物が役1750点、縄文時代の土器が少量でている。また、地表から25センチメートルほどの深さから黒曜石の石器が13点検出され、全てが白滝産という結果が出ている。

【アンモナイト化石】

鷹栖町北成地区（24線17号）の標高150m～160m地点でアンモナイトの化石が出土。白亜紀層地質の露頭が見られている。

【維文小鳥の村】

26線14号に位置する旧維文小学校校舎に続く学校林。自然に学び、自然に親しむ人間形成をめざし昭和43年に「小鳥の村」として開村した。以後、維文小学校の閉校に伴い北星小学校へ、北星小学校の閉校に伴い鷹栖小学校へと受け継がれてきている。現在は鷹栖小学校3・4年生の総合的な学習の時間として活用されている。

【北野遺跡】

通称湯本遺跡と呼ばれ、9線西2号、湯本賢蔵所有地に位置する。開拓当時、祖父の太吉が旧石器時代の石核や縄文中期の石斧・石槍・石北式の土器などを裏山や家の周辺から採取した。

【本田技術研究所】

積雪寒冷地における試験研究の必要性から、昭和63年に大成地区への総合試験場立地を決定。平成2年から工事が始まり、現在は本田祭りを開いて町民との交流を深めたりしている。

【メロディー橋】

町道5号道路と交差するオサラッペ川に架かる北野橋のことで昭和56年に掛け替えられた。川上側の欄干に鉄琴板が取り付けられて、これをたたくと「ゆうやけこやけ」のメロディーが奏でる仕組みになっている。このことから通称「メロディー橋」と呼んでいる。この橋ができたときは全国にテレビ放映され話題となった。

3. 実践編

《「オオカミの桃」について》

「オオカミの桃」がどのような経緯で出てきたのかを若干説明。昭和50年代に、食生活の面から健康にアプローチしようということになり、一人の都会出身の若い保健婦さんが当時の町長に「トマトジュースをつくりたい」と言ったことから話が始まった。

やってみようかということになり、1リットル瓶4000本を作った。嫁にいった娘が持ってきた、そのトマトジュースが「こんなにおいしいのは初めてだ」とのこと。口コミでひろがり翌年は8万本を生産することになる。

そのうち横道知事の提唱で始まった一村一品運動で、このトマトジュースに名前を付けることになり、一人の栄養士が「オオカミの桃」と名付けた。実はトマトの学名がラテン語で「オオカミの桃」というところから名付けた。以後、鷹栖の代表作になった。

(1) 指導計画

単元名「まちではたらく人たち」

【オリエンテーション】

旗をみせる

- ・トマトジュースの旗だよ。
- ・家にもその旗があるよ。
- ・トマトジュース工場へもっていくんだよ。

【工場を見学しよう】

工場見学の計画をたてる

- ・何を聞いてこようかな
- ・働いている人の様子を見てこよう
- ・工場にはどんな機械があるのかな

※ インタビューを複線化することもできる

例) 施設について
働いている人について
工場長さん など

見学しよう

- ・たくさん見よう
- ・いっぱい聞いてこよう
- ・へえ、そうなんだ
- ・いろんなことがわかったよ。

< 観点として考えられること >

- ・作業工程
- ・仕事内容
- ・勤務態勢
- ・人々の営み (苦勞、願いなど)
- ・材料の仕入れ
- ・出荷先

見てきたことをまとめよう

- ・どうやってまとめようかな
- ・みんなにわかりやすく書こう

※ まとめ方も様々できる

例) 模造紙新聞
印刷新聞
ポスター
ペープサート
テレビ番組風

など

まとめたことを発表しよう

- ・うまくできたかな
- ・上手にまとめたよ

【トマトジュースの旅】

トマトジュースはどこへいくのだろう

- ・できたジュースはどこへいくのかな
- ・どんな人が買っているのかな
- ・飲んだ感想は？

ハガキ大作戦をしよう

- ・ジュースを送る箱にハガキをいれてみよう
- ・読んでくれるかな？
- ・ハガキはもどってくるかな？

※ 工場の方の許可をもらい、
トマトジュースの箱にハガキ
をいれさせてもらう。

ハガキがもどってきた

- ・やった！もどってきた
- ・ずいぶん遠くまでいくんだね
- ・地図に印をつけてみよう

※ もどってきたハガキをもと
に、白地図に行き先を記録し
ていく。

【「トマトジュースの旅」の実践】（鷹栖小学校 稲本教諭の実践）

① ハガキを出すまでの経緯

一村一品で始まったトマトジュースだが、これだけメジャーになりメディアにも登場していることから、子どもたちにとってはインパクトが強い商品となっている。まして芸能人が飲んでいると知れば、どこへこの品物が届いているか知りたくなるのは必然ともいえると思う。そこで、どこに出荷されて、どんな人が飲んでいて、どんな感想をもっているのかを調べたくなるように話をしたり、布石をうってきた。

② ハガキを出すアイデアは？

「調べたい」という意欲を子どもたちはもつことができたが、「調べる方法」まではなかなか気付かなかった。そこで、「無理だと思ってもいいから」と話をしてアイデア募集とした。すると、「返事がこないはどこへいったかわからないよね。」という言葉から「往復ハガキ」へと話が進み、最終的に「ハガキを入れる」案ができた。

③ どのようなハガキを出したのか？

調査をしていることと、よろしければ返事をいただきたいことを簡単に書いたはがきを発送する箱の中に入れさせてもらった。（公社の承諾を受ける）

以下に掲載したのは、はがきの返事であり、38通出して30通の返事が返ってきた。

